

和なごみ

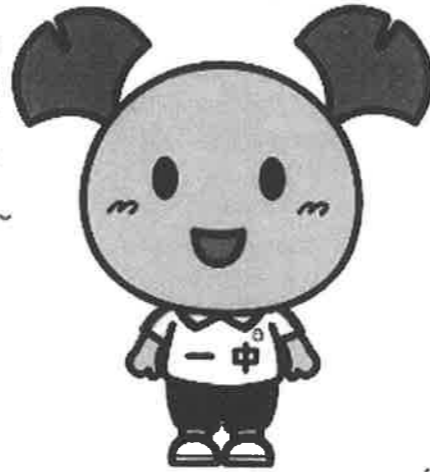
阿南市立阿南第一中学校
人権教育・啓発通信
第1号 5月 7日発行
阿南第一中学校人権教育部

文責：高島 英樹

新入生のみなさん、学校生活には慣れましたか。慌ただしかった4月も終わり、あっという間に5月です。疲れはとれましたか。いつの時代も健康が第一ですね。これから教職員も生徒も一丸となって楽しい学校づくりをしていきましょう。

君がいる ただそれだけで素晴らしい

みなさんは、このキャラクターをご存じでしょうか。一中のイメージキャラクターの「一ちゃん」です。この「一ちゃん」は、平成29年度卒業の大前美咲さんによって作られたものです。明るく、愛嬌があり、一中生をよく表しています。「みんなに知ってほしい」という願いから、今回、大前さんが卒業式前に書いた「一ちゃんにまつわるエピソードと願い」を載せることにしました。



「一ちゃんに願いを込めて」

私が1年生の時に、イメージキャラクターの募集がありました。最初、どのようなものが一中らしいかなと考えていました。

私にとって、一中は、すごくイチョウ並木が、印象的でした。それをモチーフにこのデザインを考えました。顔の部分は、ぎんなん、頭にはいちょうの葉っぱで形づけました。一中の体操服を着せると、とてもかわいく仕上がりました。

仕上がった作品が、とてもかわいくできたので良かったです。しかし、選ばれるなんて思ってもいなかったもので、選ばれたときは本当にびっくりしました。少し恥ずかしかったけどうれしかったです。

私自身、悩んでいたりと、元気のない日もありました。そんなときも、「一ちゃん」はほほえみ、励ましてくれました。私たち、卒業してしまいますが、「一ちゃん」は、これからもずっと、後輩たちを励まし続けてくれると思います。今後も、一中生全員が楽しく学校へ来られるよう、笑顔で迎えてくれる事と思います。

一中は、本当に楽しい学校でした。温かい先生方や優しい仲間が私たちを常に見守ってくれていました。「一ちゃん」も、どんな時でも優しい笑顔です。私も「一ちゃん」に負けないように、一中での思い出を大切に、卒業後も笑顔で頑張っていきたいと思っています。今までいろいろとお世話になりました。本当にありがとうございました。

3年3組 大前 美咲

※この文章は、平成30年の3月に書かれたものです。一ちゃんには誰にも優しい『これぞ 一中生』という願いが込められています。明るく思いやりのある一中生、今年度も先輩たちの思いを引き継ぎ、みんなでいい一中をつくっていきましょう。

私たちの敵はウイルス！！

ここでは、家庭で人権について考えてもらいたいです。昨年からずっと、新型コロナウイルスの感染が広がり「自分や家族が感染するかもしれない」「いつになったら安心して外出できるのか」など不安や恐怖を抱えながら生活されてきたことと思います。出口の見えない不安の中でも、一日一日を、みんな必死で頑張っています。

その中で、感染者や感染者のご家族、医療従事者の方々に対して偏見や差別をするような言動を見聞きすることはありませんか。



◎徳島県におけるコロナ差別

「菌ばらまいてからに」

昨年、県内に住む60代の女性に友人から連絡がありました。「わたし、コロナになった、ごめんやけどあんたも今すぐ検査を受けて」

友人とはよくおしゃべりをする仲です。保健所からも濃厚接触者と認められ、夫とともにPCR検査を受けました。検査結果は、いずれも陰性でした。夫婦で大喜びをしました。それから2週間の健康観察が始まり、体調に変化がないかを保健所に毎日聴かれました。わたしは、その間も「もし、擬陽性で誰かにうつしたら大変」と、考え、不要不急の外出を控え、スーパーでも二重にマスクや手袋をつけ、できるだけ短時間で買い物を済ませるようにしていました。

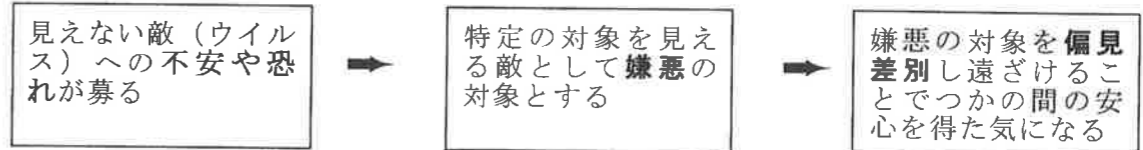
二週間たち二度目のPCR検査も陰性で、ようやくいつもの生活が送れるはずでした。久しぶりに銭湯に行ったときです。いきなり銭湯の責任者が「入らんといて！あちこちで菌をばらまいてからに、あんたのせいだ客が減ったわ。もう来んといて」

私たちが外出を控えている間、自分がコロナに感染しながら街を出歩いている、とのデマが流されていました。「もう、二度といけへん」私は、悔しさに涙が出ました。20年間毎日のように通った愛着のある銭湯で、なじみの客や職員がそんな噂を信じていたのが一番悲しかったです。

差別した側はすぐに忘れるかもしれませんが、差別された側の心の傷は簡単には癒えません。「コロナが終息しても、元の間人関係には戻りません。」今も彼女は、心療内科に通いながら、できるだけ人に会うことないように外出をひかえています。

徳島新聞『コロナの現場』より

◎どうして偏見や差別が生まれてしまうのでしょうか



※特定の人・地域・職業などに対して「危険」「ばい菌」といったレッテルを貼る心理によって差別や偏見は起こります。敵はウイルスです。感染した人が悪いものではありません。

◎私たちにできること

- 根拠のない噂や、不安をおおるような話には惑わされず、信頼できる確かな情報を集め広めましょう。
 - 差別的な言動には同調しないようにしましょう。
- ※みなさんそれぞれの場所で感染拡大しないように頑張っています。この事態に対応しているすべての方々をねぎらい、敬意を払いましょう！！